

5年1組

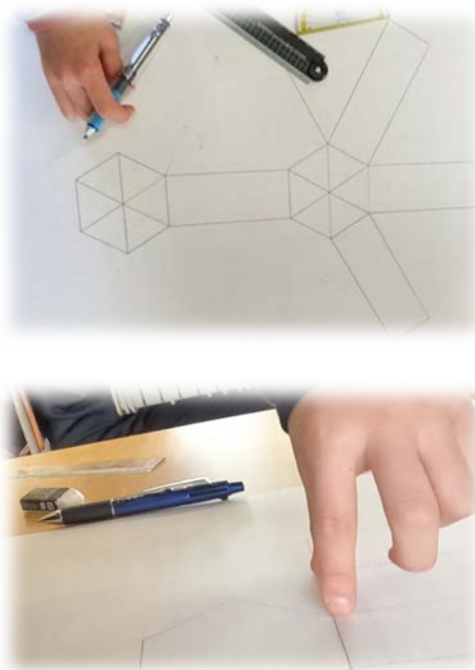
みんなで、教室で学ぶ意味



3月に入って分散登校が解除され、ようやくみんなが教室に集まって学べるようになりました。最初は分散登校中より人数が多くなったことに少し違和感をもっていた子どもたちもすぐに普段通りの環境に慣れていきました。

算数では「角柱と円柱」の学習が始まりました。工作用紙に「角柱や円周」の展開図をかいて立体をつくる場面で、担任はTさんが前の時間にかいていた六角柱の展開図を紹介しました。その後の、一人ひとりで展開図を考えて角柱や円柱を作る場面では、Mさんは「Tさんの方法だったらできそう」と言って前の時間に挑戦していた方法から展開図のかき方を変えて、もう一度六角柱に挑戦していました。友だちのやっていることや言っていることを自分なりに受け取りながら「自分だったらこうしてみようかな・・・」と考え動き出していくことに、あらためて「みんなで教室で学ぶ」意味があるなぁと感じていました。

Sさんも六角柱に挑戦していきます。SさんはTさんとは違う方法で展開図をかいていました。「自分の計算では（六角形のまわりの長さ）と展開図の長方形の辺が一致するはずなんだよ」「六角形のまわりに長方形をかくやり方もあるけど、そうやってやらない方法もあると思うんだけど」隣にいたAさんは「これで大丈夫だよ。だって自分もできたよ。三角は簡単だったよ。」とSさんが六角柱でやろうとしている方法と、同じ方法で三角柱ができたことを伝えます。「でも切らないとわからないか」と言って展開図を切っていきます。そして、切った展開図を組み立てていくと、「ああだめだなあ。」と六角形のまわりの長さとうまく重ならない事実気づきます。しかし、すぐに「でも、もうちょっと大幅にすれば・・・」「もうちょっとここをこうやって・・・」と次にどうしていったらいいか見通しをもっているようでした。言い換えれば、Sさんにとっての新たな「問い」が生まれたのだと思います。そして、Sさんは次の算数の時間で、迷わずに六角柱の作成に展開図をかくところから始めていました。「問い」を持つことによってSさんのように止まることなく学びが続いていくんだなぁとあらためて思われました。



今日、ABCD 両方の分散登校が終わりました。1ヶ月ぶりにみんなに会えました。やっぱりこのクラスで良かったって改めて思いました。授業でも meet の時授業が少し頭に入らなかったけど、学校でみんなとやると色々な意見があって楽しく出来ました。話している時も色々な事を言い合えて楽しかったし、たくさん笑えました。分散登校の時目の前に友達がいなかったという事がどんなに辛いことかよく分かりました。5年生になってもう卒業までどんどん近づいていっているんだな～って感じました。みんな離れないかもしれないけど小学校ってやっぱり大きい存在で一日一日が大切なんだなって思いました。委員会の事もあるけどこれから楽しんで毎日一緒にいてくれる友達を笑わせてくれる大切な人とこれから離れないようにコロナを予防したり、一日一日を楽しみたいなと思いました。(Hさん)